

京都の大学生が
牟岐町の防災
について
インタビュー

なによりも

大切なもの

僕らと一緒に、みんな生きてほしい

自然が美しいこの町で
豊かな人の営みがあるこの町で
「みんなで、生きていたい」と願う、若者からの熱いメッセージを
京都産業大学 木原ゼミの
学生がインタビューで届けます。



やってほしい防災対策 牟岐町の役場のみなさんに聞いてみました!

■ 災害時の時どうするか家族で話し合う機会を設けよう
避難場所や避難経路をどうするかを話し合うだけでなく、実際に自分の目で確認し、危険箇所等チェックしましょう。別々の場所にいる時に災害が発生した場合でもお互い安否確認ができるよう、日頃から安否確認方法や集合場所などを事前には話し合っておきましょう。
・災害用伝言ダイヤルを利用しよう。 局番なしの「171」
・災害用伝言板を利用しよう。



■ 食料・飲料などの備蓄をしよう
電気やガス、水道などのライフラインが止まった場合に備えて普段から飲料水や保存食を備蓄し、トイレを流したりするための生活用水を確保するため水道水を入れたポリタンクやお風呂の水をいつも張っておくなどの備えをしておきましょう。



■ 自宅で家具類の転倒・落下・移動防止対策をしよう
大地震発生の際に家具が転倒することで下敷きになり大けがをし、最悪の場合は命を落とす可能性もあります。日頃から転倒防止策を講じ、家具が転倒しないよう転倒防止をしましょう。また、部屋に閉じ込められないよう家具の配置を見直し、古い家屋ではガラス飛散防止フィルムを貼るなど、屋内での避難ルートを確認しましょう。

■ 非常用持出袋の準備をしよう
大地震発生時、避難所や安全な場所に避難して生活をする可能性があります。非常時に持ち出すものをあらかじめリュックサックに詰めて、いつでも持ち出せる準備をしましょう。すでに準備している人も、賞味期限や器具の使用の有無を確認しておきましょう。

首相官邸ホームページ「災害に対するご家庭での備え〜これだけは準備しておこう!〜」についてもご覧ください。



■ 寝ている時でも早急に避難ができる準備をしよう
就寝時に素早く避難できるよう、避難に必要な物を手の届く範囲に備えておきましょう。牟岐町では約11分で津波が到着すると予測されています。
例) 懐中電灯、履物、ホイッスル、携帯電話、眼鏡、非常用持出袋など

編集後記



山岡 美里
中学生の方が真剣に防災活動に取り組んでいる姿、素晴らしいと感じました。また、牟岐町で防災活動をする皆さんのお話を聞いて、自分自身や自分の住む地域の防災について考える良い機会にもなりました。

大河内 千春
上田先生、久君、中学生5人のインタビューを通して、防災に対する熱い気持ちが伝わってきました。特に中学生がこんなに真剣に取り組んでいる姿を見て、自分ももっと防災について考えなければいけないと感じました。近々起きるとされている南海トラフ地震に向けて、この記事が少しでも読んでくださった方の防災に対する考え方を刺激できたなら幸いです。

井原 明彦
大人でも防災対策をやっていない人が居るのに、中学生で自分の町の防災を考えている事はすごい事です。彼らの牟岐町を災害から守りたいという気持ちがインタビューでも伝わってきました。災害があまり来ない京都に住んでいる私達も改めて防災対策の大切さがわかりました。

野田 康介
今回、上田先生や中学生にインタビューをしてみんなが牟岐の風景や人のことが大好きだということがとても伝わってきました。その思いをこの新聞で牟岐の人に少しでも伝えることができたのなら幸いです。

総括

自分の身の周りで「失いたくないもの」というと、思い浮かべるのは何でしょうか。家族や友人などの親しい人、今まで当たり前で過ごしてきた日常、地域の伝統や文化など、人によって様々です。しかし災害はこれらを一瞬で破壊してしまいます。昭和南海地震の際は、多くの家屋が破壊され、多くの人が犠牲になり、被害がひどかった地域では復興工事後に地

区の名称を改称したところもありました。津波に対する恐怖は、普段生活していて感じる事はおそらくほとんどないでしょう。しかし、自分の大切なものが津波によって失われてしまうかもしれないと考えたら、必然的に恐怖を感じます。今この記事を読んでくださっているあなたが、津波の恐怖を感じてもらい、日頃から防災意識を持ち、災害が起こった際は、すぐに避難してくださることを心から願います。
(代表 大河内 千春)



